



～ 紫陽花と、校長先生！あのね！！ ～

校長 佐藤 康晴

街のあちらこちらで、初夏、梅雨時期に花を咲かす「紫陽花」が白や青、紫、ピンク色と可憐で手毬の様に美しく花を付け、目を楽しませてくれる季節になりました。日本が原産地の「紫陽花」は、原種は「額紫陽花」と言い、日本国内に自生していたものを、園芸用に改良し、手毬の様な「紫陽花（本紫陽花）」となってヨーロッパやアメリカで広く観賞用として栽培されていったそうです。子どもたちが暮らすこの町も、可憐な紫陽花に見守られながら、梅雨空の中、雨空、青空を繰り返しながら、少しずつ初夏から本格的な夏へと移り変わっていています。

学校の周りの樹木も、時折見せる夏の日差しの下で青々と葉を広げ、今年も又、子どもたちが育てている朝顔やマリーゴールド、向日葵、フウセンカズラ、オシロイバナ、ホウセンカ、コスモス、オジギソウ、茄子、オクラ、トマト、胡瓜、ピーマン、枝豆（大豆）、トウモロコシ、さつま芋などの野菜やヘチマなども、すくすくと大きく成長し、花を咲かせ、実を付けてきています。

登校すると、直ぐに水やりや観察をしに行き、自分が育てている花や野菜の成長に目を凝らす子どもたちの嬉しそうな、誇らしげな、きらきらした眼差しがそこら中に溢れ、登校を見守っている私の心を温かくしてくれます。そして、必ずと言ってよいほど、満面の笑顔の子どもたちが、自分が育てた花や野菜のことを、「校長先生！あのね！」と、たくさん報告してくれます。

私は、植物や動物を観察したり、育てたりすることは、本校の大切な教育目標である「豊かな心の育成」・「命を大切にすること」等の学びへつながっていくと思っています。自分の花、野菜栽培、学習で育てている蚕など、子どもたち一人ひとりが、主体的に関わることで、愛でる気持ちが生まれ、それぞれの成長に関わることで、興味や関心を深め「どうして？」「どうしたら？」などの思いが探究心を掘り起こしていき、さらに大切に想う心、命あるものへの優しさが育まれていくのではないのでしょうか。このような学びを通して、学校は、保護者並びに地域の皆様とともに、これからも、一緒になって子どもたちの「豊かな心の育成」・「命を大切にすること」を育んでいきたいと思っています。この子どもたちが、この間行われた地域の運動会やこれから催される盆踊り、地域のお祭りなど様々な行事を通して地域とつながり、自分が暮らす街を愛し、そして、中山・寺山・上山の町はもとより横浜の未来を創造し、紫陽花の様に、世界に羽ばたいていって欲しいと願っています。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。